

A0401-03	常圧タンクはか弱い		
本文	常圧タンクに向けて圧押しはしないこと		
リスクの種類	破損、漏洩	目次: 章節	
理由(何故)	常圧コーンルーフタンクの通常の運転圧力は25～150mmAq程度であり、そのため、常圧タンクに向けての他のタンク配管からのガスの移送、大流量の張り込み等はタンクに耐圧以上の圧がかかる恐れがあり、避けるか安全対策を施すことが必要である。また、沸点の低い液への高温度の液の張り込みは行ってはならない。		
方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) プリザーバルブ、プレッシャーシール、放出管などのつまりを定期的に点検清掃する。</li> <li>2) プリザーバルブ等の容量を越えての出し入れはしない。</li> <li>3) 沸点が低いものに対し、温度が急激に上げるような操作はしない。</li> <li>4) 常圧タンクへの脱圧は禁止とする。</li> <li>5) 融点が常温及び常温より高い流体を貯蔵しているケースでは、コーンルーフタンクのベント系は、配管内での結晶成長による閉塞を防止するために、特にトレース等の保温を施工する。</li> </ol>		
事故例	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) C5留分のコーンルーフタンク側へ配管中に残ったC5留分を窒素ガスで圧押し(パージ)したところ、突然、タンクの天板と側板のつなぎ目が破損した。</li> <li>2) 50℃に加熱されていたタンクにペンタン留分を入れたときに、屋根の溶接部が破損した。これは、ペンタンが急激に蒸発し、プリザーバルブの排出容量を越えたためである。</li> <li>3) スチレンモノマーをタンクから別のタンクに移送中に当該タンクが変形した。プリザーバルブ内でスチレン蒸気が凝縮し重合物を生成し作動不良となったため。</li> </ol>		
法的参考事項	特になし		
備考	常圧タンクは負圧に非常に弱いので注意のこと。		